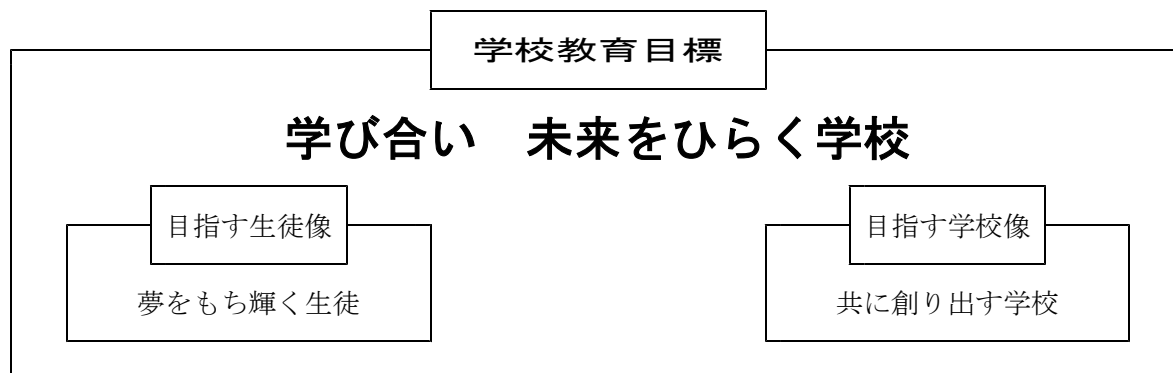


平成30年度校内研修計画

富士市立吉原第一中学校

1、学校教育目標



2、重点目標・研修主題について

重点目標：自ら動き、互いに高め合う生徒の育成
研修主題：「自らの問いから課題をもち、主体的・対話的な学びを通して課題を解決する授業づくり」

〈研修主題設定の理由〉

本校の目指す生徒像は、「夢をもち輝く生徒」である。夢をもち輝く生徒とは、「一人一人が自分の夢をもち、それを叶えるために一生懸命取り組んでいく中で、自分らしさを発揮しお互いを高め合っていくとする生徒の姿」をイメージしている。そのような生徒を育成するためには、他者との関わりを通して、課題を解決する力を身に付けること、そして、共に高め合う経験を積み重ねていくことが大切であると考えている。

本校では、平成27年度「付きたい力に迫っていく課題づくり」に重点を置き、研修を進めてきた。まず、「付きたい力」を、学習指導要領で求められる力、その教材・単元の価値、生徒の実態の3点が重なる部分であることを共通理解し、学習指導要領の指導事項を、教材や単元を通してどのように指導していくか、その教材や単元で何を教えるか、ということを生徒の実態に合わせて考え、授業を構想した。「課題づくり」については、「質の高い課題」を設定することを心掛けた。質の高い課題とは、「付きたい力」に迫っていくもの、生徒が「追究したい」「解決したい」と思うような興味・関心に即し、学ぶ必要感や切実感のある魅力ある課題であり、仲間と関わりながら解決しようとするような、ある程度の難度をもつ課題である。そして、1時間の終わりには、その時間で「付きたい力」が付いたかどうかの検証（見取り）を行ってきた。学習に対する生徒の実態を把握し、日々の生徒一人一人の学びを丁寧に見取ることで、次時の授業へつなげることができた。

平成28年度は、平成27年度の取り組みを継続しながら、仲間と関わりながら課題解決に迫っていくように、質の高い学習課題設定を中心に研修を進めた結果、生徒の思考に沿った学習課題を設定すると生徒は「主体的」に学んでいくこと、課題を解決するためには様々なしかけが必要であること、などが共通理解され、授業改善に取り組むことができた。生徒も「関わり合い」を通して、自分とは違う様々な思いを知り、「もっとこうしたい」「こんなことをやってみたい」という思いがもてるようになってきた。平成29年度は、平成28年度の課題になっていた「聴く」姿勢を意識してきた。質の高い学習課題を解決していくには、仲間の意見を聴いて共感したり、自分の意見と比較して考えたり、疑問に思ったことは仲間に「訊き返す」ことなどが大切である。また、授業の中で様々な視点から考えることや仲間の意見を聴くことが、課題を解決したり、自分の考えを深めたりすることに有効であることも成果として感じられた。そこで、平成30年度は、これまでの取り組みを継続して行っていくながら、平成29年度の課題となっていた「主体的に聴く」ことに重点を置いて研修を進めていこうと考えている。

3、研究仮説

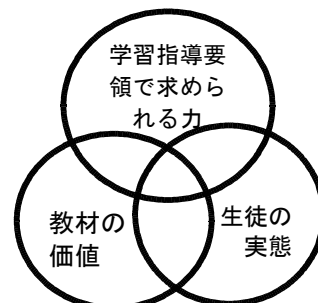
研究仮説

質の高い学習課題を設定し、仲間と関わることで、生徒に聴く力が育まれ、学びが深まり、知識・技能、思考・判断、表現力、創造力を高めることができるだろう。

《仮説を実証するために》

①「付けたい力」を意識した授業を行う。

- ・「付けたい力」は、右の図のように、学習指導要領で求められる力、その教材・単元の価値、生徒の実態の三点が重なる部分とし、「生徒全員に身に付けるべき力」と定義する。
- ・学習指導要領の指導事項を、教材や単元をとおしてどのように指導していくか、その教材や単元で何を教えるか、ということを生徒の実態に合わせて考えていく。



②「付けたい力」を生徒全員に付けるために、質の高い学習課題を設定し、板書する。

- ・学習課題は、生徒自身が内発的にもてるものが理想であるが、教師側から提示することもある。大切なのは、生徒が「追究したい」「解決したい」と思うような興味・関心に即し、学ぶ必要感や切実感のある魅力ある課題であるか、ということである。生徒が、そうした課題意識をもてるような課題を設定する。【質の高い課題】

※「質の高い課題」とは、以下のようなものである。

- ・学習指導要領の求める「付けたい力」に迫る適切な内容
- ・生徒が興味関心を持って自ら解決に向かいたくなる魅力ある質
- ・仲間と学び合いたくなる、仲間の考えを聞きたくなる適度な難度の高さのある課題
- ・学習課題を板書することで、生徒が何について学習しているか分かるようにする。

※課題の質は学習指導要領の「目標」「指導内容」の確認、深い教材研究と確かな生徒の実態の把握による。

〈学習課題の例〉

「大化の改新について学習しよう。」では、学びへの意欲は喚起されない。

「中臣鎌足や中大兄皇子が蘇我入鹿の命を奪ってまで政治を変えなければならなかった理由は何だろうか。」

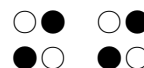
「大化の改新で政治はどのように変わったのだろうか。」

のように、何を捉えるのかを生徒自身が具体的に持てるようにする。

「○○しよう。」という形から、語尾に「？」がつくような形にすると、問題解決的な学習になっていく。

③学び合いにふさわしい学習形態を、授業者が意図をもって工夫する。

- ・仲間と助け合い、解決の見通しを付けるグループ学習や、学級全体で解決に向かうための話し合い学習を設定する。
- ・グループ学習を行うときは、4人グループを作る。
- ・グループは、男女が市松模様になるように作る。(右図)
- ・クラスの人数が4で割り切れない場合は、3人グループにする。
- ・コの字型隊形によって、互いの目を見て、反応を確かめ合いながら学び合うなど、学習形態は、授業者が授業展開に合わせて設定する。
- ・コの字型、前向き、グループ、ペアなど、生徒が学びやすく学習効果が上がる形を柔軟に工夫する。



④学習課題を解決するために、発問や学習活動を工夫する。

- ・「初発問」は、生徒のこれまでの生活経験、既習の知識・技能、一般概念等に働きかけ、主発問につながるような、導入の役割をする発問。生徒の課題への意識化を図る発問、自らの問いを生むようなものにする。
- ・感動的な教材との出会いを工夫し、「なぜそうなるのだろうか?」「不思議だなあ」「おもしろそうだな」「やってみたいな」を引き出すような初発問を考える。→主発問につなげる。
- ・生徒に分かりやすい表現で発問する。
- ・「主発問」は、学習課題を示し、解決への意識付けを促す文言で、本時の「付けたい力」に迫っていく、本時のメインとなる発問にする。
- ・学習活動は、話し合い活動や実験、調べ学習など、生徒が主体的、協働的、体験的に学び合える活動にする。
- ・生徒に、解決の見通し（考える材料）を持つ時間を設定する。
「あれを使って解けるんじゃないかな。」「比べてみよう。」「あそこの部分をよく読んでみよう。」などのように、複数の視点から考える材料があることを保証し、それらを比較、統合することで、深い解決策や考えにつながっていく。

⑤生徒が聴く・訊く姿勢を持つような工夫をする。

- ・学び合うためには、相手の話を「聴く・訊く」ことから始まる。
 - ①個別学習やグループ学習などを経て、自分なりの考えをもって表現する。(話す)
 - ②自分の考えと相手の考えとを比較して聴く。
 - ③疑問点、不明な点、自分の考えとは違う点を訊き返す。
 - ④相手の考えを踏まえた上で、新たな考えを話す。

※高め合う、深め合うためには、②から④の姿勢のスパイラルな繰り返しが必要となる。生徒に聴き方を身に付けさせておきたい。

⑥話し合い学習で、生徒をつなぐ教師の聞き返しを行う。

- もどす…考えの根拠を示させ、考え方の妥当性を吟味し合う。
「どうしてそう考えたの?」「どこからそう考えたの?」
- 広げる…自分の考えと比較させ、多様な考え方の中で論(意見)をすり合わせる。
「今の〇〇さんの意見、他の皆さんはどう考えますか?」
「同じ考え方の人はいますか?」「他の考え方の人はいますか?」
- 意図的な指名

生徒のノート、ワークシートへの記載や、グループ学習での発言などから、個の考えを的確に見取り、「反論」「同意」「他の視点からの考え」などの意見をもっている生徒を把握し、その生徒を意図的に指名して発言させ、話し合いを有機的に深め、広げていく。

※生徒の意見をもどしたり広げたり、意図的な指名を繰り返しながら、考えを比較、統合しながら学びを深め、高め、客観的・社会的(誰もが納得し得る)・合理的(論理的に正しい)な考え方に向かっていく。

⑦「付けたい力」が付いたかどうかの検証(見取り)を行う。

- ・検証とは、「付けたい力」が付いたかどうかを、どのような手段によって確認するか、ということである。検証する手段は、ワークシート、単元テスト、本時の振り返りシート、グループ内での話し合い活動、観察、ノートの記述、授業最後の確認問題…などがあると考えられる。単なる授業の感想を書かせるのではなく、付けたい力が付いたかどうかを検証するための振り返りにする。また、検証を受けて、次の支援をどうするか、ということも考えていく。

⑧生徒の実態、学習集団の実態を把握する。

- ・各教科における既習事項だけでなく、他教科との関連にも目を向ける。そうすることで、より生徒の思考の流れが見えてくる。

4、平成29年度までの取組の成果

◎生徒の思考に沿った学習課題であれば、生徒は主体的に学ぶ。

◎教師側が出したい学習課題であっても、生徒が学びたいと思うようなしかけ（一工夫）をする。

◎支援とは、学びを支えるものである。

- ・自然と周り話し出す。
- ・生徒が新たな気づきや課題を自ら発見する。
- ・生徒が問いを持っている。

- ◎授業中の支援（関わり）だけでなく、授業前にできる教材の準備
- ◎班活動における役割分担
- ◎補助発問の用意
- ◎授業で教師の出が多くなるような準備
- ◎1時間のルーティーンがある。
- ◎学びに向かわせる人的支援もある。

5、平成30年度の重点

対話的で深い学び

中央教育審議会答申（H28.12.21）より
「子供たちの学びの過程を質的に高める」

対話的な学び（答申より）

- ・子供同士の協働
- ・教職員や地域の人との対話
- ・先哲の考え方を手掛かりに考える
- ・自己の考えを広げ深める

深い学び（答申より）

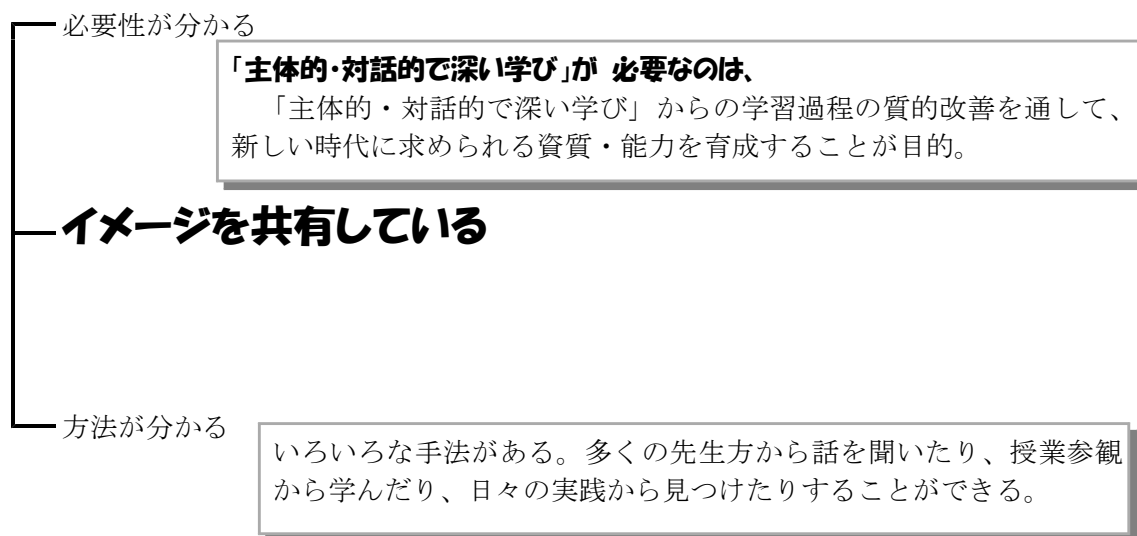
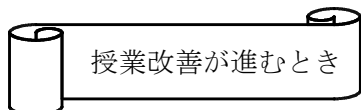
- ・習得、活用、探究という学びの過程
- ・各教科の特質に応じた「味方・考え方」を働かせる
→学習指導要領の「付けたい力」
- ・知識を相互に関連付けてより深く理解

仲間話を聴き、先哲の考え方を手掛かりに考えることにより、一人では気付かなかった新しい視点に気付いたり、質問に対して根拠を明らかにしたりして、付けたい力に迫っていくこと。

【注意すること】（よりよい自分をつくっていくためにⅣより）

対話があればよいというわけではないし、「どの方法もよい」というまとめで終えてしまえば、学習指導要領に示されている内容を子どもたちに身に付けることはできません。

「話し合いの目的がはっきりしない」「話し合いが発表会になっている」「多様な意見が出たあとの吟味が不十分」という授業は、改善していきましょう。



6、研修部からの連絡

★学習環境を整えましょう。

- ・教室前面の掲示は、特別支援を要する生徒への配慮も含めて、落ち着いた色合いのものにしましょう。
- ・前黒板は、授業で全面を使用できるようにしたいので、連絡事項を書いたり、プリントを貼ったりしないでください。
- ・グループをスムーズに作るため、机の両脇に荷物をかけないでください。
- ・ロッカーや教師の机上など、生徒が授業を受ける上で、目に入るところは、整頓しておきましょう。